

「 鍼灸 (はり きゅう) 治療 」

について

鍼灸治療とは？

鍼 (はり)

髪の毛より細い 0.1~0.3mm の鍼を筋肉・関節・経穴 (いわゆるツボ) に刺すことで

- ① 筋緊張の緩和・筋柔軟性の回復
- ② 鎮痛・消炎
- ③ 神経症状の改善 (神経痛・しびれ・感覚異常など)
- ④ 筋疲労・全身疲労の改善



※刺す時には **基本的には痛みはありません!**

※鍼に機械で通電して効果をより高める施術をする場合があります

灸 (きゅう)

ヨモギの葉を原料とした艾 (もぐさ) を各部位に置いて燃焼させ、温熱刺激により

- ① 筋緊張の緩和・疼痛の軽減
- ② 筋血流量の増大による疲労改善
- ③ 内臓や身体の機能調整・改善



禁忌

鍼: 金属アレルギー、極度の体調不良、眼や肺など危険な部位への刺鍼

血が止まりにくい病気または薬を飲んでいる (血友病・壊血病・糖尿病など)

灸: 顔面部や皮膚疾患のあるところ

電気治療: ペースメーカー 体内に金属・プラスチック (人工関節・釘・チタンなど) が入っている

「 鍼灸（はり きゅう）治療 」

について

鍼のリスク管理

① 気胸…鍼が肺に刺さってしまい、胸痛・呼吸困難などをきたす

対策： 危険部位への刺鍼を行わない、身体を動かさないように指導

対応： 応急処置後、医療機関へ搬送し対応を依頼

② 抜鍼困難・折鍼…鍼を打った後に身体が動いてしまい、鍼が曲がったり

折れたりして抜きづらくなるまたは抜けなくなる

対策： 折れにくい鍼の使用、身体を動かさないように指導

対応： 抜けづらくなっただけの場合は、その後の処置で改善できます。しばらく違和感が残る場合もありますが、時間経過で消失する場合はほとんどです。

万が一折れてしまった場合は医療機関に搬送し対応を依頼

③ 脳貧血…刺激が身体に合わない場合、一時的に体調不良が出る

対策： 座位・立位など貧血の起こりやすい肢位での施術をしない

体調などを考慮し、適切な刺激量で施術する

対応： 基本的に安静にして時間経過で改善します。

改善が少ない場合は下肢に刺鍼して血流量を調整し改善します

④ 出血・内出血…基本的には鍼は血管を破れないが、皮膚表面の

毛細血管が破れてしまうことがある

対策： 丁寧に施術、鍼の太さの調節

対応： 止血処置をきちんとすれば数日で消失する場合は多い

灸のリスク管理

① 灸痕の化膿…体質や皮膚の状態によってまれに灸の跡が化膿してしまう

対策： 消毒の徹底、事前の聞き取り、刺激量の調整

対応： 火傷と同様の症状なので、市販の軟膏などで対応

ひどい場合には皮膚科に対応依頼

② 灸あたり…刺激が身体に合わない場合、一時的に体調不良が出る

対策： 刺激量の調整

対応： 基本的には安静にして時間経過で改善します